



# 地域リハビリテーション支援センターだより (神奈川県リハビリテーション支援センター)

## 地域リハビリテーション連携構築推進事業について

地域リハビリテーション支援センターの事業の一つにリハビリテーション連携構築推進事業があります。簡単に言うと地域にリハビリテーションを推進しながら地域内で多職種でのネットワークを構築するものです。

かつて、平成23年・24年に秦野市でリハ連携構築推進事業の前身となるリハビリテーション推進事業をモデル地域として実践した経過があります。介護保険、障害福祉、医療などの連携を推進しましたが、その後約10年が経過し、ここ数年はコロナ禍もあり当センターとの関係・地域とのつながりは遠くなっていました。

少し話は変わりますが、障害福祉分野にグループホームという生活施設があります。小規模で比較的自立度が高い利用者が多い生活施設ですが、ここ数年秦野市に限らず、地域生活支援体制の推進というテーマのもと、障害者の生活の場を確保するという点から増加傾向にあります。グループホームは個々に独自の設立の経過をたどってきたことや、障害別・目的別など、グループホームの特色が違うなどの背景があり、同じ市内でのグループホーム同士のネットワーク構築や地域での多職種の連携というニーズがあります。

利用者の方の自立度が高いということは、身体機能が比較的保たれているということですが、施設利用者の方もみな等しく歳を重ね、特に知的障害の方などは加齢による身体機能の低下が40歳代から出現するといったデータもあります。

こうした背景もあり、今回リハビリテーションの考え方を秦野市内の障害福祉のグループホームに案内するというテーマで研修会の開催を企画しました。

(小川 淳)

### 秦野市

### 障害福祉グループホームにおけるリハビリテーションの可能性について

開催日時： 1回目 2023年1月23日(月) 13:00～15:30(予定)  
2回目 2023年2月10日(金) 13:00～15:30(予定)

受講者数： 1回あたり40名程度

受講対象： グループホーム関係者、障害福祉・介護保険関係者、訪問リハビリテーション関係者など  
\* 秦野市以外の方も参加が可能です。

会場： 秦野市本町公民館(秦野市入船町12-2) \*オンライン(Zoom)参加も可能です。

受講料  
無料



#### 1回目

##### 秦野市内の障害福祉グループホーム連携について

- (1) 障害福祉グループホームについての概要説明
  - ・グループホーム増加の背景
  - ・グループホームと介護、医療、福祉との関係性
- (2) 参加グループホームの紹介
- (3) リハ職を導入しているグループホームからの事例紹介

#### 2回目

##### 障害福祉グループホームと リハビリテーション連携について

- (1) 知的障害者の身体機能低下について
  - ・地域リハ支援センターより事例紹介
- (2) リハ専門職ができること
- (3) 事例紹介
  - ・障害福祉からの地域移行について
- (4) 神奈川県における共生社会推進について
  - ・県共生推進本部よりメッセージ



# リハビリテーション 専門研修



コロナの第7波により、対面形式での開催が危ぶまれましたが、事前の体調管理チェックや当日の感染予防にご協力いただき、無事予定通りに開催することができました。ありがとうございます！

## 8.27(土) 高次脳機能障がいセミナー 理解編 『ゼロから知ろう高次脳機能障がい』



医療・福祉・行政関係者・患者/家族等を対象に高次脳機能障がいに関する基礎的な医学的知識や、多職種によるそれぞれの支援方法について、講義を通して学びました。

### 受講生の声

障がいについて改めて確認すると共に、説明を知識がない方へどう行えばよいかについても参考になりました。

神奈川リハ病院 医師 青木 重陽、臨床心理士 白川 大平、作業療法士 吉澤 拓也、コーディネーター 永井 喜子

## 9.3(土) PT・OTのための臨床動作分析



この研修会は3年前から計画していましたが、2年連続で台風が直撃したことやコロナ感染により泣く泣く中止となっていました。今年度は、3年越しに開催することができ感無量です。講義・実技から伝わる『患者様第一』の変わらぬ姿勢に、あらためて多くのことを学びました。

### 受講生の声

身体機能にばかり着目した介入しかできていなかったため、情動面に目を向けることの大切さがわかった。担当患者がなぜ機能が上がってこなかったのか臨床でのヒントになった。

びわこ専門職大学 理学療法科 教授 富田 昌夫

## 9.7(水) 視覚障がいのある方への支援



アイマスクやロービジョン体験キットを使用して、視覚障がいがある方の見え方を体感しながら、その支援方法（声のかけ方や誘導法など）を学びました。

### 受講生の声

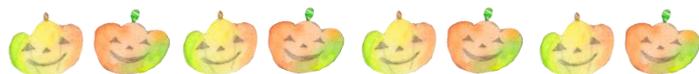
実体験が多く気づくことが多かった。怖いということ、なかなかわからない部分を理解できたことに加え、それに対してどのようにアプローチすればよいのかを学習することができて、大変勉強になった。



神奈川リハ病院

眼科医師 久保 寛之、眼科視能訓練士 齋藤 奈緒子  
視覚障がい支援担当 矢部 健三、内野 大介、内記 郁

## 11・12月の専門研修(予定)



ポジショニング入門	11月 1日(火)	ウィリング横浜
知的障がいのある方への生活支援	11月 15日(火)	神奈川県総合リハビリテーションセンター
在宅における呼吸器・循環器管理について	12月 3日(土)	神奈川県総合リハビリテーションセンター
高次脳機能障がいセミナー 実務編	12月 10日(土)	神奈川工科大学 IT エクステンションセンター

\*感染状況により、研修形式等の変更がある場合があります。適宜ホームページをご確認ください。

2022

リハビリテーション・ケア合同研究大会

in 苫小牧



この学術集会は、今年度で **10周年** となります！

今年度は『**覧古考新**』… **古い事の良いところを参考にしながらも新しい事を考えよう** というテーマのもと、北海道の苫小牧（グランドニュー王子・苫小牧市民会館・苫小牧市文化会館）にて開催されました。



当支援センターのスタッフも現地またはオンラインで発表を行いました。内容は下記の通りです。



**訪問看護ステーションへのリハビリテーションに関するアンケートの調査結果から現状分析と課題について** SW 小川 淳

昨年度、県内政令市を除いた訪問看護ステーションに対して、リハビリテーションに関するアンケート調査を行いました。訪問看護師が幅広くリハビリテーションを行っているという実態や、リハビリテーションの情報について地域移行させる側と地域のリハ職の求める情報の違い等の情報共有するための課題などについて報告しました。

**地域リハ支援センター研修の検討 ～対面研修とオンライン研修の比較～** PT 小泉 千秋

2017年度から2021年度に行われた過去5年間の当地域リハビリテーション支援センターで実施した研修について、対面とオンラインの研修形態について比較検討しました。オンライン研修開始時は、対応が不慣れで、参加者の受講アンケートの評価が例年より低下していました。その後、オンラインでの研修対応について検討した結果、アンケート評価も改善しました。今後もコロナ感染状況を考慮しながら、研修方法を検討していきたいと思えます。

**「リモコンが押せなくなった」脊髄性筋委縮症患者への自助具の考案** OT 清水 里美

リハビリテーション工学エンジニアと協働し、3Dプリンタを用いて「てこの原理」を利用した構造の自助具を作製し、リモコンに取り付けました。結果、わずかな力で操作することが可能となり、心身の負担の軽減につながりました。それぞれの専門性を生かしながら協働し、良いものを提供できてよかったです。



**参加報告** 副所長 磯部 貴光

リハビリテーション・ケア合同研究大会[苫小牧 2022]に参加してきました。天気に恵まれ、北海道の初秋満喫です。研究大会は、シンポジウム等講演 35 題、一般演題 464 演題がありました。当地域リハビリテーション支援センターからも上記3演題の発表を行いました。新型コロナ感染拡大対策として、Web参加とリアル参加のハイブリッド開催で、演題発表形式も現地口述発表に加えオンライン発表やオンラインポスター発表などの工夫が見られていました。まだ、大会参加者数等の発表はありませんが、開催地が、北海道という事もあり、現地参加者数は、多くない印象でした。しかし、久しぶりの現地参加のリアル感は、最高でした。

ちよっとBreak  **北海道グルメ情報** ~♪

**Picante** (ピカンティ) in 札幌

北 12 条駅から徒歩3分、北海道大学の近くにあるスープカレーで有名なお店です。コクのあるスープにチキンと野菜の旨み、さらに素揚げゴボウをトッピングするとおいしさが倍増します♪ 美味すぎて、食べ過ぎ注意の1品です!!! (小泉)



例年、全国地域リハビリテーション合同研修大会に合わせて、全国リハ支援センター所長会議が行われます。今回は9月30日にWeb会議として、22都道府県が参加し、山梨県・大分県・兵庫県の支援センターより代表して活動報告がありました。

大分県	介護予防に向けた取り組みで、県内の健康寿命が全国第2位まで改善した。
山梨県	地域リハ支援センターの再構築を国のモデル事業として取り組んでおり、広域リハ支援センターを廃止して、直接協力機関の支援に回り成果を上げている。
兵庫県	新たにリハビリ指針を作成し、市町村単位でネットワーク作りや人材育成に取り組んでいる。また、全国的にPOS（療法士派遣システム）バンクの立ち上げや災害時のJRAT支援など、より地域に密着した支援事業にも目を向け地域課題の掘り起こしに取り組んでいる。

このコロナ禍での支援事業は、どこも苦労している中で創意工夫が見られました。どの支援センターでも会議はほとんどオンラインで、最近ようやく対面形式を再開したそうです。対面形式の支援に制約がある中ともするとお互いの努力が目に見えず精神的フレイルに陥りがちで対面形式の支援の大切さも共通認識でした。

## 第26回 かながわ地域リハビリテーション支援連絡会 報告

今年度1回目の連絡会が「在宅支援でのフォローアップ・効果判定について」というテーマのもと、9月21日にオンラインにて開催されました。この連絡会は、県内の政令市（横浜・川崎・相模原）のリハセンターと地域リハについての情報や意見交換を目的に開催しています。

横浜市総合リハセンター	在宅支援で訪問したケースのフォローアップの報告 ⇒ 訪問後3か月・6か月の状況を確認し、必要に応じて再訪問を行う。
地域リハ支援センター	リハ専門相談後に状況を確認するためのアンケート調査の報告
相模原市障害者更生相談所	在宅支援の例として、新たな地域での介護予防事業についての報告
れいんぼう川崎	在宅支援したケースのフォローアップを、新たに電話による確認を行った報告

どの施設においても、支援後のフォローアップは課題に挙げられており、どのように支援対応していくかを模索している状況でした。今年度内にあと1回開催する予定です。ここ数年オンライン開催が続いておりますので、感染状況が落ち着いていれば対面での開催を検討しています。

(小泉 千秋)



### 4月～9月末 専門相談実績



	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷 (除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切 断・加齢等)	不明	合計
県央	6(1)	2	7(1)	2(2)			10(2)	3(1)	3(2)	1	34(9)
湘南東部		1			8(1)	1	4				14(1)
湘南西部	1	7(1)	4(1)		1	6(2)	3	1	3		26(4)
県西	1(1)	2	2		1						6(1)
横須賀・三浦			1						2		3
合計	8(2)	12(1)	14(2)	2(2)	10(1)	7(2)	17(2)	4(1)	8(2)	1	83(15)

	障害者更生 相談所	居宅介護支援 事業所	市町村	地域包括 支援事業所	本人・家族	障害者 相談支援 事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護 事業所	保健福祉 事務所	高齢者施設	訪問介護 事業所	教育機関	その他	合計
県央		3	1		3	3	11(3)		1		9(5)	2(1)	1		34(9)
湘南東部					1	1	7(1)	1	3				1		14(1)
湘南西部		3(1)			4	2	9(3)		4				3	1	26(4)
県西			1		1			1	2(1)					1	6(1)
横須賀・三浦				1	2										3
合計		6(1)	2	1	11	6	27(7)	2	10(1)		9(5)	2(1)	5	2	83(15)

( )の数字は訪問の件数

### 編集後記

10月に入りようやく秋めいてきました。今年は紅葉の時期も少し遅いようですね。全国旅行支援も始まったので、どこかに行こうか計画♪コロナの感染に気を付けながら秋を楽しみたいです(S)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
☎ 046-249-2602  
FAX 046-249-2601